

都道府県別賞一等

生命保険と私の夢

岐阜県 大垣市立赤坂中学校 二学年

森川 鈴菜

私には夢がある。私の遠い将来の夢は、通訳として世界中の人々の役に立つ仕事をする事である。近い将来の夢としては、大学で英語の勉強がしたい。また、できればアメリカの大学でさらに英語の勉強をしたいと思っている。そのために、中学生である今、勉強を頑張ることは当然のことであるが、病気やケガをしないよう、身体にも気をつけていかなければならない。

私はまだ中学生で、大きな病気やケガはしたことがないが、もしこれから先、大きな病気やケガで入院したらどうしようと考えていることがある。また、たとえ自分が健康でも、父や母、祖父母が大きな病気やケガをして入院などしたら自分のことだけを考えているわけにはいかない。家族の看病をしたり、付き添ったり、経済的にも大きな出費となると、留学など考えられなくなる。

生命保険というものは、中学生の私には無縁のものだと思っていたが、自分の夢やその先を考えると、他人ごとではないなと思った。家族に生命保険について聞いてみたが、なんと家族全員生命保険に入っていないことが分かった。私は少し不安になり、生命保険について調べた。生命保険は、事故や災害、病気などによって収入を維持できなくなったり、経済的打撃をカバーするためのものがある。大勢の人が公平に保険料を出し合うことにより、大きな共有の準備財産をつくり、経済的に助け合っている。中でも死亡保険は、万一の場合の保障であるために、あらゆる人に必要であると言える。ただし、どのくらいの保障金額が必要かとなると人それぞれ異なる。

人はいつ病気にかかるか分からない。自分は健康でも交通事故など不運なことで死亡するかもしれない。お金だけが人生を左右させるものではないが、自分の将来の夢を達成することや、その先のことを考えると、自分の努力と経済力も必要であると思う。昔から、“備えあれば憂いなし”、“転ばぬ先のつえ”ということわざがあるように、普段の生活から準備や用心をしておくことが大切だと思う。また、“塞翁が馬”ということわざもあるように、人生の幸、不幸は予測できない。

## 第55回中学生作文コンクール

私はこれから、自分の夢に向かって努力し続けていかなければならないが、私が成長し、大学生になるころには、父は五十四歳、母は五十歳である。私が一人前になるまで健康でいてほしいし、私のため、父、母自身のために生命保険に入ってほしいと願っている。凶々しいかもしれないが、私が一人前になったときには、私が恩返しをする番であると思っている。

私が将来、通訳の仕事などで外国へ行くとしたら、外国で病気やケガ、事故にあったら日本よりも入院費、治療費がかかる。たとえばアメリカでは、一般人でも銃を所有しており、物騒である。しかし、生命保険に入っていればお金の心配も減り、安心できると思う。

夢を叶えるために勉強、努力することも大事であるが、万が一に備え、病気やケガ、事故のせいで自分の夢を諦めなくてすむよう、手を打っておくことも大事だと思った。